



# 果樹特報

No.4

平成30年5月11日  
JA中野市営農センター  
JA中野市りんご・もも部会

5月下旬まで黒星病の重要防除期間です。一定の間隔で薬剤散布を進め感染防止努めてください。また、4月末から、うどんこ病被害枝が市内全域で散見されます。この病害は5月の高温・乾燥状態下において感染拡大します。薬剤散布と併せて被害枝の除去を進めてください。

## りんご

### ◆ 5月中旬の薬剤散布（前回散布より12日後）

+	散布時期：5/15～20頃			散布日：5月 日
+	散布薬剤：水	100 <sup>リットル</sup>		散布量： <sup>リットル</sup>
	展着剤	10ml		
	フルーツセイバー	50ml（前日、3回）	*注意事項①参照	
	コルト顆粒水和剤	25g（前日、3回）	*注意事項②参照	
	スイカル	100g（カルシウム剤）		
+	対象病害虫：黒星病・黒点病・うどんこ病・赤星病			
	アブラムシ類・カイガラムシ類			
+	10アール当り散布量：500 <sup>リットル</sup>			

#### 【注意事項】 \*必ずお読みください。

- ① フルーツセイバーに代えて、アントラコール顆粒水和剤500倍（45日、4回）でもよい。
- ② コルト顆粒水和剤に代えて、劇モスピラン顆粒水溶剤4,000倍（前日、3回）でもよい（カメムシ類に登録あり）。尚、モスピラン顆粒水溶剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ③ 枝腐らん病対策：トップジンM水和剤1000倍（前日、6回）を加用する。
- ④ 6月末まではサビの発生しやすい時期です。高温時の散布は避けてください。
- ⑤ ビターピット・果実軟化防止対策：スイカル等は、果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果がある。今回から5～6回連続して散布する。尚、スイカルに代えて、ストピットII（カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果あり）の500倍を使用してもよい。

#### ◆ 次回（6月上旬）薬剤散布予定：6/1～5

梅雨前の炭そ病・褐斑病等予防及びシンクイムシ類・カイガラムシ類等対象の薬剤散布です。

◆ 次頁もお読みください。（葉面散布資材使用例他）

◆ 5～6月の葉面散布資材使用例

下表の資材は定期散布農薬と混用可能です。苦土欠乏症状等改善、健全葉育成を目的に各資材を選択使用してください。

\*N-窒素、P-リン酸、K-カリ、Mg-苦土、Mn-マンガン、B-ホウ素

商品名	保証成分量	使用目的	使用時期	倍率(倍)	価格/規格	600 <sup>㍉</sup> 価格
グリーンデイズ (おすすめ!)	水溶性苦土 16% 水溶性マンガン 9.0% 水溶性ほう素 2.5%	苦土等補給 葉の健全化 品質向上他	結実後～ 6月下旬	1000	1,491/1kg	895円
ビックマグ	水溶性苦土 23%	苦土補給 葉の健全化	結実後～ 6月下旬	1000	1,146/1kg	688円
オルガミンDA	窒素全量 0.11% 水溶性苦土 4% 水溶性ほう素 0.7% 水溶性加里 0.11% 水溶性マンガン 0.25%	光合成促進 品質向上 等	結実後～ 収穫前	1000	3,666/10 15,552/50	2,200円(10) 1,866円(50)

◆ 今後の技術対策について

◆ ふじ生育状況調査(調査地点:平岡)

4月下旬の連続高温により、開花期は大きく前進しました。(満開期は昨年比△11日・H28年並み・開花期間は平年より長く経過)花量は多めでしたが、前段の土壌乾燥により、ふじではカラマツの発生が多い模様です。

年度	発芽	開花	満開
H28	3/31	4/21	4/23
H29	4/7	5/1	5/5
<b>H30</b>	<b>3/29</b>	<b>4/21</b>	<b>4/24</b>
前年差	△9	△10	△11



◆ 結実後の技術対策

- ① 満開後約3週間位(5/15過ぎ)で結実量や幼果のサビ等が確認できます。よって、結実状況を確認し、5/15前後から予備摘果作業に入ってください。
- ② ふじで結実量が極端に不足している場合は、予備摘果時期を遅らせ、変形果やサビ果(果面の50%位まで)等の素質の悪い果実でも残し、樹勢の安定化を図ってください。
- ③ 低温被害が大きい地帯では、側果を利用できるふじから優先的に予備摘果を進めてください。
- ④ つがるや秋映等の品種で、低温被害が見られる場合は、極端な一輪摘果を控え、まずは結実状況やサビ果の発生状況を確認してください。中心果の欠落が著しい場合は、素質の良い側果を利用して生産量の確保に努めてください。
- ⑤ 結実不良園では、早期の徒長枝切除は当面控えてください。また、梅雨明け頃に過繁茂状態になる場合は、適宜管理作業を進めてください。
- ⑥ 養分転換期の5月中旬になっても、展葉枚数が少なく、葉色が悪く小さい葉が多く見られる場合は、追肥や葉面散布を実施してください。(詳細は上記参照)